

平成 25 年度 置戸町行政評価委員会報告

(平成 24 年度分)

置戸町行政評価委員会

置戸町行政評価委員会報告

はじめに

置戸町では、行政改革大綱に基づく行政改革の取り組みの一つとして、平成16年度に行政評価システムを導入しました。この行政評価では、行政の内部評価と町民による外部評価を取り入れ、評価結果を町民と行政とが共有することで協働のまちづくりを目指すとしてきました。

また、まちづくり基本条例にあつては「町民のための行政」として行政評価が条文化され、第5次置戸町総合計画でも「町民と行政による協働の推進」を実現することがうたわれ、住民参加が求められています。

今年度の行政評価は、平成24年度に引き続きの委員会として2年目の評価を行いました。昨年度の反省やこれまでの経過を活かしつつ、委員会の設置目的、役割を考えながら各種事務事業について議論を重ねました。

本委員会において開催された5回の会議から、委員会としての意見を以下のとおり取りまとめ報告いたします。

委員会の開催状況

平成25年度の行政評価委員会は、下記により5回開催しました。

- (1) 第1回委員会【平成25年8月2日】
 - ・評価事務事業、評価方法の確認
 - ・委員会評価及び意見について協議

- (2) 第2回委員会【平成25年8月23日】
 - ・委員会評価及び意見について協議

(3) 第3回委員会【平成25年9月13日】

- ・委員会評価及び意見について協議

(4) 第4回委員会【平成25年10月9日】

- ・担当部局との意見交換
- ・委員会評価及び意見について協議

(5) 第5回委員会【平成25年11月7日】

- ・担当部局との意見交換後の委員会評価
- ・平成25年度置戸町行政評価委員会報告書（平成24年度分）について協議

評価方法について

今年度の評価対象事務事業の選定にあたっては、285件の行政評価調書の中から、21件の評価事務事業候補を選定しました。そのうち、1件の事務事業について担当課から説明を受けるなどし、事業内容が理解できたことから評価より除外しましたので、20件の事務事業についての評価を行いました。

また、事業を選定する際は、過去に評価対象となった事務事業と同じものができるだけ選定しないよう心がけました。

評価については、平成24年度の事務事業に対する委員会としての評価を簡潔に記載しました。主管課評価が適正であると判断し、同じ評価となった事務事業については、委員会としての参考意見を記載し、主管課評価と異なる評価となった事務事業については、その理由を記載しています。

主管課評価と異なる評価となった事務事業については、担当課の課長とも意見交換を行い、事務事業内容の理解を深めたうえでの評価となるよう努めました。

評価内容報告

人口減少、少子高齢化の進行及び地域経済の低迷に加えて、震災や異常気象による被害など、市町村を取り巻く環境が一層厳しさを増しているなか、置戸町も限られた行政資源（財源、人員等）を最大限に有効活用するためには、施策や事業の優先化・重点化を厳しく精査していくことが必要です。

今回、20件の事務事業について評価を行いました。評価を進めるにあたっては財政効率だけでなく、置戸町や町民の「いま」、「みらい」に必要なものを町民の目線で評価することを意識しました。

外部評価結果については、20件中15件の事務事業が概ね主管課・内部評価のとおりであると判断し、5件の事務事業が主管課・内部評価と異なる結果となりました。主管課・内部評価のとおりと判断した事務事業についても、評価作業のなかで多くの議論が交わされ、その意見を委員会の参考意見として付記させていただきました。これらの意見が行政内部で議論され、見直しのきっかけとなり本年度実施の事務事業や平成26年度予算に反映されることを期待しています。

本年度の評価作業を終え、これまでの行政評価委員会としての役割を踏まえ、これまで以上にこの委員会の活動が、第5次置戸町総合計画が目指すまちの将来像である「自然を愛し、人にやさしいまちづくり」の実現に役立つことを願います。

以下、行政評価の仕組みへの意見や評価を終えて各委員の感想を含め報告いたします。なお、事務事業ごとの外部評価結果については、「置戸町行政評価委員会外部評価結果（平成24年度分）」に記載のとおりです。

■行政評価調書の構成・文章の表現について

- ・評価調書の内容は適切な表現になっており、理解できる表現であった。
- ・調書にある事業名から、その内容を理解しにくいものもあったが、添付されていた資料が適切であり、ていねいな説明も受け理解できた。
- ・評価調書については、添付資料や説明を受けわかりやすい。
- ・事務事業名から事業内容を想像しにくいものがあるため、分かりやすい「サブタイトル」のようなものがついているといいのではないか。
- ・内容と事業名が合わない事務事業があるので、事業名の変更が必要ではないか。
- ・参考資料や説明がなければ理解が難しいものが多い
- ・事業内容を短時間で理解するのは大変である。

■評価対象数、委員会開催回数等について

- ・選定事業数、委員会開催数とも適当であった（3名）
- ・昨年に引き続き2年目で余裕ができたからか、選定された事業は昨年と重なるものはほとんど無く、まんべんなく選定できた。5回の委員会開催がちょうどよかった。
- ・短期間での評価作業を行うので、事業数・開催回数は妥当だと思う。
- ・実質3か月間の委員会開催期間であるため、選定数によって、委員会開催回数は検討したほうが良い。
- ・3回くらいにしてはどうか。

■事務事業の選定・評価方法について

- ・選定期間がもう少しほしかった。（2名）
- ・事業件数をしばってから選定することが良いのではないか。
- ・担当課長との意見交換（説明）の場があり、外部評価をする上で参考になった。
- ・選び方及び評価方法はこの方法でよい。自分の仕事以外の行政の業務を知る機会があまりない私にとって、皆様との意見交換や情報を知ることができるこの方法はとても良かった。
- ・内部評価で主管課評価と評価が異なるものについては、事務局側で自動的に選定ほうが良い。
- ・行政側からの選定があっても良い。
- ・行政評価委員の指摘事項が多い事業は、すみやかに改善や廃止をすることが望ましい。評価にとどまらず、対策（改善）・実行が必要である。
- ・適当である。
- ・事務事業名が似たり寄ったりの事業が多く、説明がなければ選定に迷う場面が多い。評価方法については妥当。

■評価作業を実施して

- ・行政の方とこうやって顔見知りになり、その役割（業務内容）を詳しく知ることができ、とても勉強になった。ますます置戸町が好きになった。ぜひ、町民の方が行政を理解し、さらに住みよい町になっていくように、ひらかれた行政であり続け、発展するよう望む。
- ・10月から11月初旬は農繁期であり、農業関係者が評価委員会にたずさわることは厳しいと思われる。
- ・行政の方は皆様親切で友好的で意見交換等もとても楽しく参加した。遅くまで残って資料を準備し、穏やかに仕事に就いている職員の様子に頭が下がる。
- ・委員が7名というのは少ないのではないか。
- ・任期2年目は評価対象事業の選出が難しく、個人的には任期は1年でも良かったのではないかと感じた。
- ・年度事業完了から主管課評価～内部評価を経て外部評価を行い、次年度事業への参考にするので、開催時期はやむを得ない。
- ・評価作業を実施すること（委員になったこと）で、事業を初めて知ることになるものが多く、広く町民に知らしめす工夫も必要と思う（行政の不得意とするところ）。

置戸町行政評価委員会外部評価結果（平成24年度分）

※主管課・内部評価と異なる評価結果となった事務事業については、それぞれの評価内容についても記載しています。

No. 005

事務事業名	【特産物宣伝事業（地域振興事業）】町づくり企画課
※ 主管課評価	「このまま継続」 特産品を活用しての宣伝効果は大きい。今後は、現行予算範囲内でより効果的な宣伝方法や活用場なども検討しながら継続する。
※ 内部評価	「このまま継続」 主管課評価のとおり
外部評価	「その他」 事業内容と事業名が合致していないため、事業名を変更が必要。
理由	特産物を宣伝、PRすることは重要なことだと思うが、本事業は本来の宣伝事業とは言いがたい内容である。本事業を宣伝事業とするならば事業を拡大すべきであるが、継続するならば誤解の無いように事業名を変更すべきである。

No. 043

事務事業名	【じん芥処理等業務委託料（燃やすごみ）】町民生活課
評価	「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり） 置戸町での処理施設が無い現状を考慮し、このまま継続する。
参考意見	ダイオキシン対策が可能な処理施設を置戸町単独で建設することは難しく、適正な処理施設を有する北見市に委託することは合理的であると理解する。将来的にも北見市、訓子府町と協力し継続していくべきである。ただし、ごみ減量化の啓発やごみ処理にかかるコストについての周知もあわせて実施してほしい。

No. 048

事務事業名	【し尿中継槽土地借上料】町民生活課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 現状ではこのまま継続すべきだが、将来の移転等の検討が必要。
参考意見	し尿収集時期と処理施設受け入れ態勢との調整上必要であることは理解できるが、土地所有者からの移設の希望もあることから、町有地に中継槽を設置することが行政の責務ではないか。

No. 051

事務事業名	【置戸町ふるさと運動推進協議会交付金】町民生活課
※ 主管課評価	「このまま継続」 ふるさと運動を推進する当協議会の活動は、町民や当町にゆかりのある人との交流を促進し、町民等のふるさと意識の高揚と地域活性化を図る上で重要な役割を担っていることから、今後とも財政支援を継続する。
※ 内部評価	「内容を変更し継続(予算・事業:拡大)」 置戸町出身の若年層へのふるさと会参加への働きかけ、情報発信が必要である。
外部評価	「内容を変更し継続(予算・事業内容:拡大)(内部評価のとおり)」 ふるさと運動を将来にわたり継続するために、若年層に対して加入促進策を工夫し支援すべき。
理由	町外へ転出した置戸町にゆかりのある方と連携をはかりながらふるさとづくりを行うことは大切なことであるが、ふるさと運動の中心組織である「おけと会」に若年層が少ないことは、将来のふるさと運動の衰退が懸念される。事業内容及び情報発信方法に工夫を凝らし、若年層のふるさと運動の担い手を増やすべきである。

No. 055

事務事業名	【営農施設災害復旧資金利子補給金】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 被災した農業者の負担軽減のため、このまま継続すべき。
参考意見	農業者の経営の安定のためには必要であり、このまま継続すべき。今後、同様な事案が発生した場合には(被害の状況によるが)同様に実施を検討してほしい。

066

事務事業名	【エゾシカ駆除対策事業補助金】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 狩猟免許取得者の担い手対策に有効であるため、このまま継続すべき。
参考意見	道東でのエゾシカの農林業被害が増大しているが、ハンターの高齢化などにより、適正な生息数管理ができていない現状がある。エゾシカを適正な生息数にし、農林業の被害を減少させるためにも、今後も国や北海道などと連携し、エゾシカ対策を図ってほしい。 また、エゾシカを資源として捉え、食肉利用などの有効活用も検討してはどうだろうか。

No. 095

事務事業名	【置戸地区連合補助金】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 置戸町全体の労働者のために必要でありこのまま継続すべき。
参考意見	町内労働者全体の労働条件や社会的、経済的地位向上のため必要であり、財政基盤が脆弱であるため、町からの補助は継続が必要である。

No. 097

事務事業名	【置戸町中小企業金融資金融資事業】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 中小企業の経営の安定に必要であり、このまま継続すべき。
参考意見	中小企業金融円滑化法が期限到来し、中小企業の資金繰りの悪化が懸念されるなか、今後も北見信用金庫置戸支店及び置戸町商工会と密接に連携しながら継続した支援を期待する。

No. 102

事務事業名	【おけと湖周辺観光施設管理運営事業】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 撤去計画策定までは、管理をこのまま継続すべき。
参考意見	メモリーハウスとキャンプ場については休止しているが、景観面、防犯面の双方からも撤去計画を速やかに計画し、整理する時期にきているのではないか。

No. 104

事務事業名	【公園管理事業】産業振興課
※ 主管課評価	「このまま継続」 境野公園は、児童公園機能が境野駅前に集約され、現在パークゴルフ利用者のトイレ利用が主だったものとなっている。南ヶ丘公園は、様々な団体・グループが花見や遠足に利用しており、平成23年度から桜の更新及び増殖を進めており、年月をかけて「桜の公園」として名勝復活を目指すため、維持管理を継続する。
※ 内部評価	「このまま継続」 主管課評価のとおり
外部評価	「内容を変更し継続(その他:改修及び移管)」 南ヶ丘公園の管理棟については改修し、境野公園については体育施設とすべき。
理由	南ヶ丘公園の桜の名勝復活を目指すのであれば、トイレを含めた管理棟の改修が必要である。境野公園については、実質パークゴルフ場であり、勝山ふれあい公園(パークゴルフ場)と同様に運動公園に位置づけるのが適切ではないか。

No. 144

事務事業名	【児童遊園地】地域福祉センター
※ 主管課評価	「内容を変更し継続（事業内容：縮小）」 児童遊園地の廃止、統合を検討した中で、使用可能な遊具については、修繕、移設等を行い、安全で快適に利用できるよう点検、環境整備を行う。 また、地域住民との協議を行いながら、再編整備について検討を進める。
※ 内部評価	「内容を変更し継続（事業内容：縮小）」 主管課評価のとおり
外部評価	「内容を変更し継続（予算・事業内容：拡大）」 積極的な再編をし、児童の健全育成の中心施設となりうる児童遊園地の建設を求める。
理 由	現児童遊園地再編計画は、既存児童遊園地を統廃合する計画である。事故防止の観点からも老朽化した遊具の撤去はすべきであるが、統廃合のみではなく、秋田小メモリアル公園「わいわい」の好事例を参考に、町の中心部に児童が集う児童遊園地の整備を望む。

No. 149

事務事業名	【精神保健事業（精神障がい者社会復帰支援事業）】地域福祉センター
評 価	「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり） 精神障がい者が社会復帰を目指す場所として必要であるため、このまま継続すべき。
参考意見	活動拠点となるNPO法人が設立される予定であるが、置戸町とNPO法人が協働し、事業を展開していくことを望む。

No. 160

事務事業名	【地域介護予防活動支援事業】地域福祉センター
評 価	「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり） 高齢者同士支えあえる地域づくりに必要であり、このまま継続すべき。
参考意見	高齢化が進む置戸町のなかで、高齢者の地区リーダーを中心に自主的に介護予防活動を行うことは望ましい姿である。 しかし、高齢者が活動するための交通手段については問題化しつつあり、置戸町全体の課題として検討する時期にきているのではないかと。

No. 172

事務事業名	【老人居室整備資金貸付金】地域福祉センター
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 高齢者と家族との良好な関係維持するために必要であるため、このまま継続すべき。
参考意見	事業開始から多くの町民に利用され、現在も少ないながらも滞納も無く町民に利用され続けている。 本制度が有効であることを否定するものではないが、効果と事務量を考えると必ずしも行政がしなければならない事業ではないのではないか。今後は、他の制度のように利子補給金を交付することも検討してはどうだろうか。

No. 175

事務事業名	【地域ケア会議】地域福祉センター
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 高齢者福祉の充実のために必要でありこのまま継続すべき。
参考意見	各福祉関係団体と情報交換、施策についての協議を通じ、情報の共有を図ることができるため、今後も充実した会議の継続を望む。

No. 177

事務事業名	【家族介護支援事業(地域支援事業)】地域福祉センター
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 要介護高齢者及びその家族を地域ぐるみで支える体制を構築するために必要であり、このまま継続すべき。
参考意見	置戸町の高齢化率は年々上がっており、それに伴い高齢者を介護する方の割合も増加している。高齢者を介護している家族の精神的な軽減を図るため、今後も事業の継続を望む。 加えて、現在介護に関心のない町民を巻き込み地域ぐるみで支えられるように、一般町民への周知・啓発活動を積極的に展開してほしい。

No. 195

事務事業名	【置戸町PTA連合会交付金】学校教育課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 活発なPTA活動を継続するために支援は必要であり、このまま継続すべき。
参考意見	保護者と教職員が協力し子どもたちの健全育成のために活動することは、後退させるべきでなくこのまま継続すべきであるが、本交付金の算定方法等の詳細が理解されていない面があると思われるため、教育委員会は事務局に周知を徹底してほしい。

No. 220

事務事業名	【学校支援地域本部事業】社会教育課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 地域ぐるみでの子育て体制を構築するために必要なため、このまま継続すべき。
参考意見	国の制度とは関係なく、置戸町は昔から学校と地域とが密接にかかわりながら子どもを見守り、育んできた。今後も国の制度を有効に利用しながら、置戸らしい子育て環境を継続できるように事業を実施してほしい。

No. 237

事務事業名	【置戸町スポーツ少年団協議会補助金】社会教育課
※ 主管課評価	<p>「このまま継続」</p> <p>各スポーツ少年団が会員減少と指導者が不足する中で、それぞれが努力と工夫をしながら活動を継続しており、子ども達の健全育成とスポーツの振興には欠かせない活動である。したがって、このまま継続して補助金を交付すべきである。</p> <p>20年度から始めた協議会主催の体力テストを本年度も実施したが、データの蓄積、活用を視野に入れて今後も継続が望まれる。また、社会体育の振興のために、町内の退職者等の活用など指導者の養成・確保は、急務である。</p> <p>特に体育協会も含めた体育団体総体の中で、少年少女を指導するに足る後継者の養成が望まれる。</p>
※ 内部評価	<p>「このまま継続」</p> <p>主管課評価に同じ</p>
外部評価	<p>「内容を変更し継続（予算・事業内容：拡大）」</p> <p>少年団指導者の確保・育成に必要な事業実施、予算確保をするべき。</p>
理由	<p>スポーツ少年団活動は青少年の健全な育成に有用であり、継続するべきであるが、指導者確保と団員の減少による費用負担増という問題を抱えている。少子化、過疎化が進むなか、教育委員会（社会体育）は協議会と連携し、地域スポーツの基礎となるスポーツ少年団運営への支援と同時に課題の検証を行ってほしい。</p>

No. 245

事務事業名	【生産技術者育成】森林工芸館
評価	<p>「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり）</p> <p>オケクラフトの担い手育成に必要であり、このまま継続すべき。</p>
参考意見	<p>本年で誕生から30周年を迎えるオケクラフトは、置戸町の地域ブランドとしての地位を築いてきた。このオケクラフトの生産技術者育成のための研修制度については、今後もまちづくりの人材育成を重視しつつ継続すべき。</p>

置戸町行政評価委員会委員

委員長 岩崎 靖

副委員長 櫻井 眞由美

委員 大友 亮一

委員 小野垣 裕樹

委員 佐久間 孝

委員 水嶋 陽子

委員 山岡 晴美